

2025
9・10月
合併号

福岡地区労連

発行：福岡地区労働組合総連合
〒810-0041
福岡市中央区大名2-2-51
第一吉田ビル203号
TEL 092-724-3333
FAX 092-741-5110
Mail : fukuciku@gmail.com



(HPはこちら)

福岡医療団労組第38回定期大会

待遇改善と人員確保に向けた取り組みの団結

今こそ労働組合の団結を

9月20日、第38回福岡医療団労働組合定期大会が開催され、多くの来賓や組合員が参加しました。大会では、医療業界が直面する深刻な課題、特に人員不足、経営難、診療報酬の問題などが議論されました。

財前実行委員長からは、医療業界の現状について、社会保障費が削減される一方で、コンプライアンスの厳格化により業務負担が増大している状況が報告

されました。特に看護師不足の問題が深刻であり、看護師一人当たりの負担が増大していることが指摘されました。

福岡県医労連の保元書記長より、医療従事者の大幅賃上げの必要性が訴えられ、2025年春闘では県内で436人の組合員のストライクを立ち上げたことが報告されました。しかし、物価高騰対策が不十分で、多くの医療機関や介護福祉施設

で十分な賃上げができていない状況が指摘されました。また、診療報酬の10%引き上げを求める署名活動の重要性が強調されました。

福岡地区労連の内田事務局長より、医療介護現場の待遇改善の必要性が訴えられ、コロナ禍で浮き彫りになった医療崩壊の背景には、経済優先の政策や国立病院・保健所の統廃合があることが指摘されました。また、軍事費の拡大と社会保障費の削減という政府の方針に対する批判が述べられました。



第38回福岡医療団労組定期大会にて財前執行委員長よりのあいさつ

新仁会労働組合の大山執行委員長より、大牟田地域の人口減少と高齢化による人員不足の問題が報告され、地域に根ざした医療機関としてのアピールと、現在働いている人材を大切にすることが取り組みの重要性が強調されました。また、診療報酬の問題についても言及

がありました。

松尾書記長より2024年度の総括と2025年度の活動方針が提案されました。2024年度は経営が厳しい中で活動となり、夏季一時金が下げられるなど厳しい状況でしたが、年末一時金は確保できたことが成果として報告されました。

強調され、「医療・介護従事者の大幅増員で安全・安心の医療介護を実現する請願署名」を重点的に取り組むことが提案されました。また、平和運動や専門部会の活動強化、情報発信の充実なども提案されました。



35周年レセプションでの団結ガンバロー

福岡医療団労組 35周年レセプション

夕方からは、福岡医療団労組35周年レセプションが開催されました。多くの来賓が参加し、福岡医療団労組35

年間の歴史の振り返りや医療業界の厳しい現状と、それを改善するための労働組合の役割の重要性が強調され、今後の医療従事者の待遇改善と人員確保に向けた取り組みの団結を深めました。

(編集委員 松尾)

若い世代にバトンを渡して

福岡医療団労組 三苫 哲也



福岡医療団労働組合で2000年から2010年まで、2015年から2025年の20年間専従を務めてきましたが、この度、専従を降りて現場に復帰することとなりました。この20年間を振り返ったときに、一番重点を置いていたのは「人創り」ではなかったかと思えます。労働組合運動は正直に申し上げて衰退期に入り、その減少の勢いに歯止めがかかっていません。それは世代間の運動への取り組みの姿勢に対するギャップだと思えます。古い世代が次世代の感覚、常識を呑み込めなかったこ

とが弱点だったと私は感じています。専従の最初の10年は先輩からの受け継いだ運動をとにかく下の世代に引き継いでいくことでした。最後の10年は下の世代をいかに主役にしていくのかに心を砕いてきました。私は厳しい先輩、柔軟な発想の後輩、その両方の感性のバランスが、これからのさらに新しい世代との付き合いの中で求められていくと思います。労働組合運動は衰退期ではあるものの滅亡ではありません。若い世代を信頼し新しい活路を築いていきましよう。

第65回福岡地区労連評議員会

戦後80年の節目にあたり、いのちと暮らしを守るたたかいを

憲法を守りくらしに活かす運動を

福岡地区労連は9月19日千鳥ビル2階で第65回評議員会を開催しました。評議員会では、



評議委員会での米地議長あいさつ

今年度の活動経過報告が提案され、1年間の主な運動が報告されました。経過報告では、はじめにとりまぐ情勢で戦

後80年の節目に当たることが述べられ、戦後の決意として国民主権、基本的人権の尊重、戦争放棄を日本国憲法に記していますが、実態は、国民主権と基本的人権は軽視され、戦争放棄から戦争する国づくりへと変質していることが挙げられ、憲法を守りくらしに活かすための運動が必要とされました。

また、国民生活は物価の高騰が続き食料品や燃料の高騰に悲鳴が上がっているほどの窮

地に立っています。物価高対策が急務であり、物価高騰に見合う賃金要求が重要であることが確認されました。災害避難所の充実を求める請願署名に全力を今年1月に能登半島地震が起こり、福岡市の災害対策が脆弱であることがあらわになりました。福岡市の災害対策の状況は166万人の市民に対して2万人の市民に比べて5000人分の対策となっており、この備蓄量は福岡市人口の1.5%に過ぎません。能登半島地震では人口の24%の方が避難したことからも見て、桁違いに少ないものです。災害避難所の充実を求める会が呼びかけている

請願署名に取り組み必要性も述べられました。最賃見直し福岡地区過半数まであと3000

最低賃金の意見書採択推進運動は、現在、福岡地区の20自治体のうち、8自治体で採択されています。9月議会で大野城市議会、12月議会で筑紫野市議会で最賃引き上げ意見書の議論が進められ、福岡地区労連では、2025年内に過半数の自治体で意見書採択を目指すことが述べられました。経過報告は評議員会で可決され、来年度の運動方針に積み上げられます。

（編集委員 内田）

福岡地区労連幹事会学習会 OTC類似薬の保険適用除外を知っていますか

福岡地区労連では、毎月の幹事会で情勢学習会を行っています。

その中で衝撃的な学習会としてOTC類似薬の保険適用除外が医療関係者からも反対の声が上がっています。この内容は政府が医療費の削減を目的にOTC類似薬（市販薬と類似の効果を持つ処方薬）の一部が、2026年度から公的医療保険の適用外となる方向で調整が進められています。

例えば、今まで処方箋をもらい保険が適用され、ほとんどの方が3割負担で済んでいた鎮痛剤、胃薬、シップ薬などを全額負担で薬局（ドラッグストアーなど）で購入させざるやり方です。

対象の薬品はほかにもあり、患者の負担が非常に大

きくなることは避けられませんが、患者負担の増加や、必要な受診が遅れることによる健康被害への懸念、医療費源の有効活用を促すことを期待する声など、医療界や患者団体からは反対意見も出ています。

と大軍は限られた財源をめぐるとリードオフの関係にあります。2022年の安部三文書の改悪により5年間で43兆円の大軍拡が進められています。医療費や介護費、年金といった社会保障分野の予算が、防衛費増額のしわ寄せを受ける形で抑制されることは許すわけにはいきません。

（編集委員 内田）

（編集委員 松尾）

参加費4,000円



OTC 医薬品(市販薬)イメージ

戦争と原発のない社会をめざす福岡市民の会とFFF福岡は「気候危機と原発を考える集い2」を開催しました。FFF福岡の高田氏の講演では、地球温暖化の原因になっている温室効果ガスは地球を覆い続け、太陽からの熱（赤外線）を放出できなくなる限界点に

達すると取り返しのつかない環境破壊が起こると述べられました。地球温暖化の限界点とは、「ティッピング・ポイント（転換点）」と言われ、この点を超えると地球環境に不可逆的で制御不能な大規模な変化が起こるときに達する可能性が高いと

（編集委員 内田）

（編集委員 松尾）



気候危機と原発を考える集い2の様子

気候危機と原発を考える集い2 地球温暖化の限界点まであと50年を切る

戦争と原発のない社会をめざす福岡市民の会をめぐり、福岡市民の会事務局長の工藤氏からは、地球温暖化の対策として原発に頼る意見が出ていますが、ひとたび事故を起こせば甚大な環境破壊が懸念されると述べられました。

今後のスケジュール

第36回福岡地区労連定期大会

10月19日(日) 開場

10:00開会10:30

リファレンス大博多

ビル

○人間らしく働くための九州セミナーin大分

11月15日(土) 13:00

16日(日) 12:30

J・COMホルト

ホール大分

参加費4,000円

記念公演笑いでございませぬ!

9月10日、前進座特別公演

「笑いごとではありませぬ!」

が上演されました。

18時開演にも関わらず、500名以上が駆け付け

大盛況に終わりました。

公演では、冒頭で現

役活躍中の嘶家による

落語からはじまり、戦

時中の人々の暮らしや



2025年9月10日(水)開場18:00 開演18:30